

概 況

1 製造業：持ち直しの動きに陰りが見られる

- 一般機械器具：持ち直しの動きに陰りがみられる
- 輸送用機械器具：持ち直しの動きに陰りがみられる
- 電気機械器具：持ち直しの動きに陰りがみられる
- 金属製品：持ち直しの動きに陰りがみられる
- プラスチック製品：一部に厳しい状況がみられるものの、  
持ち直しの動きが続いている
- 鋳鉄物（川口）：厳しいながらも持ち直しの動きが続いている
- 印刷業：厳しい状況が続いている

2 小売業：一部に厳しい状況がみられるものの、持ち直しの動きがみられる

- 百貨店：持ち直しの動きがみられる
- スーパー：改善の兆しもみられるが弱い動きが続いている
- 商店街：厳しい状況が続いている

3 情報サービス業：悪化が続いている

4 建設業：悪化が続き厳しい状況となっている

企業の声

【現在の景況感】

- 「かなり仕事を抱えており、比較的好調である」（一般機械）
- 「10月頃から陰りがみえてきた。補助金終了の影響が大きいと思う」（輸送用機械）
- 「新機種の生産を開始したが、それほど好調とは言えない」（電気機械）
- 「営業担当者の『仕事がない』という言葉が頻りに聞く」（印刷業）

【売上げ、採算】

- 「人件費、材料費の増加を内製化等による経費削減でカバーしたため良くなった」（金属製品）
- 「リーマンショック前の80%まで回復したが、そこからはなかなか戻らない状況にある」（鋳鉄物）
- 「主力の婦人服を中心に前年同期を上回った」（百貨店）
- 「冬物衣料は全くダメ。食料品も全般的に低調で好調なものを探すのが難しい」（スーパー）

【今後の見通し】

- 「厳しい状況は続くと思う。何とか現状維持は保てるようにはしたい」（商店街）
- 「大手が良くなっているので、中小にもその恩恵があるものと期待している」（情報サービス）
- 「業界は二極化が進行しており、特徴のない会社はアジアとの競争を強いられ、さらに厳しくなるだろう」（プラスチック製品）
- 「この業界は景気の回復にタイムラグがある。暫くはこの不況の状態が続く」（建設業）

## 1 製造業 『持ち直しの動きに陰りがみられる』

### (1) 一般機械器具 『持ち直しの動きに陰りがみられる』

【業界の動向】県内の一般機械の鉱工業生産指数は、平成22年4月から8か月連続で前年同月を上回っており、直近の11月は前年同月を62.6%上回った。

【景況感】「かなり仕事を抱えており、比較的好況である」とする企業もあったが、「ようやく底打ちした感があるが、そこから上昇する気配がない」や「発注元が相次いで海外移転しており、明るい材料はほとんどない」など「不況である」とする企業が多く、持ち直しの動きに陰りがみられる。

【売上げ】「下げ止まった感じはあるが、上昇に転じることはなく底ばい状態である」とする企業もあったが、「生産能力を上回るほどの受注がある」や「厳しいながらも何とか仕事が戻ってきている」などの企業もあった。

【品目別の状況】「半導体、産業機械、医療関連は比較的好調である」や「家電関連は中国など海外に仕事を大きく奪われており、国内生産は低調である」などの声が聞かれた。

【受注単価】「円高の影響により、5～7%程度の値下げ要請が再三ある」、「LEDの価格が最高値時の約1/4まで下がっているので、自ずと単価も大きく低下している」や「中国や韓国製品に押されて下がる一方である」との声が聞かれ、すべての企業が「下がった」としている。

【原材料価格】「コークスやスクラップ鉄の価格は変動していない」など「ほとんど変わらない」とする企業が多かったが、「銅の価格は前年比で10%上昇した」とする企業もあった。

【採算性】「内製化により外注費を10%削減したため収益性は好転した」など、「良くなった」とする企業もあったが、「仕事が減少気味でしかも単価が削減されており、採算性は悪化している」など、「悪くなった」とする企業が多かった。

【設備投資】「機械設備の定期的な更新を実施した」など、すべての企業で設備投資を実施した。今後については、「機械の更新を行う」とする企業もあったが、多くの企業で実施予定がない。

【今後の見通し】「円高の影響により来期は悪化することが確実な情勢である」や「業界としてのパイは縮小する一方で、我慢比べの状態が続く」など、先行きを懸念する声が多かった。

### (2) 輸送用機械器具 『持ち直しの動きに陰りがみられる』

【業界の動向】国内の四輪車生産台数は、平成22年10月以降2か月連続で前年同月を下回って推移しており、直近の平成22年11月は前年同月を6.7%下回った。

【景況感】「10月頃から陰りがみえてきた。補助金終了の影響が大きいと思う」や「周りからいい話を聞かない」との声が聞かれ、持ち直しの動きに陰りがみられる。

【売上げ】「トラックはアジア、中近東、ブラジル向け輸出が堅調に推移した」との話もあったが、「国内向け乗用車部品の中には、20%減少したのものもあった」との話があり、「ほとんど変わらない」か「減少した」とする企業が多かった。また、「量産品はローコスト国への生産移行が始まっている」や「受注1年未満の製品の製造打ち切りがあった。恐らく海外生産へシフトされたと思う」などの話があった。こうした中、「空洞化が進んでいる。車以外の新しい仕事の獲得に努めている」や「東南アジアへ工場を建設する」という話もあった。

【受注単価】「10月に価格交渉があった。普段は1.8%程度の値下げ要請であるが、円高の影響もあり3%の値下げ要請があった」との話があり、「下がった」とする企業が多かった。今後についても「1月に価格交渉がある。下がるのは間違いない」との話があり、「下がる」とする企業が多かった。

【原材料価格】「鉄、ステンレスともに高止まりしたままである」など、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。

【採算性】「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。

【設備投資】「内製化のための機械を購入した」、「古い機械を入れ替えた」など、すべての企業が実施した。今後についても「20年以上使っている機械の入替えを考えている」、「営業を強化しているため、新規受注が出来れば設備投資したい」など、多くの企業が実施を予定している。

【今後の見通し】「売上げの中心が国内販売の車部品。国内で車が売れない状態が続いているため不安だ」や「現地調達化が進展しており、得意先の動向が心配だ」など、先行きを懸念する声が多く聞かれた。

### (3) 電気機械器具 『持ち直しの動きに陰りがみられる』

【業界の動向】県内の電気機械の鉱工業生産指数は、平成21年12月以降12か月連続で前年同月を上回って推移しており、直近の平成22年11月は前年同月を33.0%上回った。

【景況感】「新機種の生産を開始したが、それほど好調とは言えない」、「政策減税の廃止や円高の影響により半導体業界は急激かつ大幅な後退局面にある」や「円高により、業況は緩やかではあるが下降気味になりつつある」などの声が聞かれ、すべての企業が「不況である」とし、持ち直しの動きに陰りがみられる。

【売上げ】「新機種が発売されたため前年同期よりは仕事が増えている」とする企業もあったが、「取引先の生産ラインが海外へシフトし、受注がかなり減っている」や「12月から急激な需要減になってしまった」との声が聞かれ、「減った」とする企業が多かった。

【受注単価】「他社にない技術を有しており、安定した単価で仕事が入ってくる」、「円高の影響が看過できなくなっており、中国やインドとの見積りと比較されることもあり厳しい」や「原材料が高騰気味なので、取引先には徐々に価格転嫁をしてもらっている」など、様々な声が聞かれた。

【原材料価格】「10月からレアアースの価格がこれまでの4～5倍に値上げされた」とする企業もあったが、「原材料は無償支給のため価格変動の影響はない」など、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。

【採算性】「固定費を出来るだけ削減し、収益性はトントンである」との声も聞かれたが、「売上げ減少に経費削減が追いつかない」や「売上げが急激に減少しており、採算性も加速的に悪化している」など、「悪くなった」とする企業が多かった。

【設備投資】「新規事業のための研磨機や工場敷地内の廃液処理施設など、総額で2億円以上の大規模な投資をした」や「ドライミストと1,000万円程度の検査機器を購入した」など、実施した企業が多かった。今後についても、「タイ工場で6,000万円程度の投資をする」などの声が聞かれ、予定している企業が多かった。

【今後の見通し】「3月までは何とか仕事がありそうだが、その後は見通しのきかない状態である」、「新年から新製品の生産が開始されるので何とか好調になってもらいたい」や「3月までは現在の急激な後退局面が継続する」など様々な声が聞かれた。

### (4) 金属製品 『持ち直しの動きに陰りがみられる』

【業界の動向】県内の金属製品の鉱工業生産指数は、平成22年9月以降3か月連続で前年同月を下回って推移しており、直近の11月は前年同月を1.6%下回った。

【景況感】「赤字にならない程度で、これが普通の状態である」との話もあったが、「全体的に息切れしているような気がする」、「この不況の状態が当たり前と感じる」などの声が聞かれ、持ち直しの動きに陰りがみられる。

【売上げ】「7～9月期より若干ではあるが減少した」とする企業もあったが、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。

【品目別の状況】「医療関連は堅調に推移している」、「住宅関連は良くなっている」や「携帯電話関連は好調を維持している」という話があった。しかし、「電気部品関連は相変わらず仕事がなく、もはやこの状態が普通である」、「インフラ関連の仕事が落ちてきている」との声も聞かれた。また、「自動車関連は補助金の終了により、30%程度落ち込んでいる。この状態が来春まで続くと思う」など、今後を不安視する声も聞かれた。

【受注単価】「今まで値下げの話はなかったが、5%程度の値下げ要請を受けている。円高が原因のようだ」などの声が聞かれ、「下がった」とする企業が多かった。

【原材料価格】「金属価格が上昇している。特に銀は4～5年前の3倍程度に上昇している」や「アルミ、ステンレスが2～3%上昇した」などの話があり、上昇した原材料が多かった。また、今後も上昇傾向が続くと考えている企業が多かった。

【採算性】「単価の引下げ、原材料の上昇で悪くなった」とする企業もあったが、「人件費、材料費の増加を内製化等による経費削減でカバーしたため良くなった」との話もあった。

【設備投資】「パソコンの入替えを行った」企業もあったが、「仕事が逼迫している訳ではない。既存設備のメンテナンスで十分」などの声が聞かれ、実施しなかった企業が多かった。

【今後の見通し】「リーマンショック後1回目の淘汰が起こったが、1～3月にかけて2回目の淘汰が起こるのではないか」との声が聞かれ、先行きに懸念を感じる企業が多かった。また「日本だけでは限界である」として、「中国に合弁会社を設立する」との企業もあった。

**(5) プラスチック製品『一部に厳しい状況がみられるものの、持ち直しの動きが続いている』**

【業界の動向】県内のプラスチック製品の鋳工業生産指数は、平成22年1月から10か月連続で前年同月を上回って推移していたが、直近の11月は前年同月を0.8%下回った。

【景況感】「当社は3月決算だが、9月末に上方修正した」、「赤字と黒字を行ったり来たりしながら、厳しいながらも何とかやっている状態である」や「当社は忙しいが、業界の仕事量は減少傾向にある」との声が聞かれ、一部に厳しい状況がみられるものの、持ち直しの動きが続いている。

【売上げ】「前年比では増えているが、7～9月期比はほぼ横ばいである」とする企業が多かった。「高いレベルを維持しているが、品目によっては陰りが見え始めたものも出てきた」や「例年は9月だけの在庫調整が10月にもあったが、11月以降で落ち込みはカバー出来ている」などの話があった。

【品目別の状況】「医療関連は、上向きとは言えないものの好調は持続している」、「ユニットバスは前年比10%増加しているが、車輻関連は減少している」や「光通信関連は少し減っている」などの話があった。

【受注単価】「値下げ要請はあるが、まだ下げていない」との声が聞かれ、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。また、「値下げの要請度合いは多少強くなっている」や「今後は仕事量が増える見込みなので、値下げを飲まざるを得ないだろう」などの話があった。

【原材料価格】「成形材料は横ばいだが、金属材料は値上がりしている」、「外国産の安くて良い物を見つけて購入することにより、横ばいを保っている」や「端材をかうようにし、原材料費は6%ダウンした」など、様々な声が聞かれた。

【採算性】「前年よりは良くなっているものの、7～9月期比ではほとんど変わらない」とする企業が多かった。

【設備投資】「コスト削減のために自動化の機械を購入した」など、実施した企業が多かった。今後についても、「測定機を購入する予定である」や「増設中の工場が1月に完成するので、生産設備を購入する」など、実施予定の企業が多かった。

【今後の見通し】「年明け以降は少し落ちるだろう」との話もあったが、「先は見えづらいが、仕事量は増える見込みである」との声も聞かれた。また、「業界は二極化が進行しており、特徴のない会社はアジアとの競争を強いられ、更に厳しくなるだろう」との話もあった。

**(6) 銑鉄鋳物(川口)『厳しいながらも持ち直しの動きが続いている』**

【業界の動向】銑鉄鋳物(川口)の生産量は、直近の平成22年9月は8月と比べると19.7%増加しており、前年同月比でも47.4%増加し、9か月連続で前年同月を上回っている。

【景況感】「まだ満足できるレベルではないが、当社は仕事がある方だと思う」との声が聞かれた。また、「取り扱い品目によって差が大きく、リーマンショック前の水準を超えている企業がある一方、50%程度しか回復していない企業もある」との声も聞かれ、厳しいながらも持ち直しの動きが続いている。

【売上げ】「リーマンショック前の80%程度まで回復したが、そこからはなかなか戻らない状況にある」や「前年比は30%増加しているものの、7～9月期比では若干下がった」との声が聞かれ、前年よりは増加しているものの、7～9月期比では「横ばい～微減」の企業が多かった。

【品目別の状況】「建築関連は底を打った感がある」や「建設機械はアジア向けが好調であり、リーマンショック前の水準を超えている」などの話があった。

【受注単価】「3～5%下がった」とする企業もあったが、「今のところは変わっていないが、値下げ要請は徐々に強くなっている」との声が多かった。

【原材料価格】「銑鉄は9月に値上がりし、その後は横ばいで推移している」などの声が聞かれ、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。

【採算性】「前年度決算は赤字だったが、経費削減の効果により、今年度の収支はトントンの見込みである」や「経費が増えた分だけ低下した。今後はじわりじわりと低下していくと思う」など、様々な声が聞かれた。

【設備投資】「増産に備え折り曲げ機を購入した」とする企業もあったが、実施しなかった企業が多かった。今後については実施予定の企業はなかった。

【今後の見通し】「建築関連は厳しい状況にあることは変わらないが、ここ2年は下がりすぎた感があるので、反動増を期待している」との声もあったが、「仕事量は減少することが見込まれ、見通しは暗めである」との声もあり、楽観視できる状況ではない。

## (7) 印刷業 『厳しい状況が続いている』

【業界の動向】県内の印刷業の鉱工業生産指数は、平成21年11月以降13か月連続で前年同月を上回って推移しており、直近の平成22年11月は前年同月を4.8%上回った。

【景況感】「完全にデフレである」、「この10年こんな不況が続いている」や「営業担当者の『仕事がない』という言葉が頻りに聞く」など、すべての企業が「不況である」としており、厳しい状況が続いている。

【売上げ】「前期比で3~4%は減少している」、「ペーパーレス化が進み、伝票、領収書等の印刷の仕事が減少している」や「チラシは年々減少している。費用対効果の問題から、チラシはDMや携帯電話のメールへ移行している」などの話があり、「減った」とする企業が多かった。「新しい印刷設備を導入したので、今後は営業に力を注ぎ新規の仕事を獲得したい」と話す企業もあった。

【受注単価】「前年同期比では平均で30%下がった」、「発注業者は製造原価のことなど考慮してくれない。安ければ安いほどいいという風潮だ」や「リーマンショック後1年経過した頃から一気に下落した」などの声が聞かれ、多くの企業が「下がった」としている。

【原材料価格】「紙・インキは変わらなかった」との声が多かった。今後についても「変わらない」とする企業が多かった。

【採算性】「売上げの減少を経費削減によりカバーした」との声も聞かれ「変わらない」とする企業もあったが、「仕事量の減少と比例して採算が悪化した」など、「悪くなった」とする企業が多かった。

【設備投資】すべての企業で実施しなかった。今後についても実施する予定はない。

【今後の見通し】「紙媒体の仕事が減少することは目に見えている」や「全体の発注量が減少しているため、今後も売上げ・単価は伸びない。益々厳しくなる。」など、すべての企業が悪い方向に向かうと考えている。こうした中、「10月よりコンサルタントを導入し、5Sに取り組み体質改善を行っている」との話もあった。

## 2 小売業 『一部に厳しい状況がみられるものの、持ち直しの動きがみられる』

### (1) 百貨店 『持ち直しの動きがみられる』

【業界の動向】商業販売統計によると県内百貨店の販売額は、平成22年10月には31か月ぶりに前年同月を上回り、直近の平成22年11月は、既存店ベース、全店ベースともに前年同月を0.3%上回った。

【景況感】「買い控えも限界にきたのか、主力の婦人服を中心に前年同期を上回った」や「プロパー（正規価格）の動きがよく、セールに回さなくても数字が取れるようになった」などの声が聞かれ、「（景況は）悪くない」や「上向いてきた」とする店舗もあり、持ち直しの動きが見られる。

【売上げ】「季節どおりに天候が動いたので、売上げが伸びた」や「売場のリニューアル効果で客数が増え、前年同期を上回った」などの声が聞かれ、すべての店舗で増加した。

品目別には、衣料品、服飾雑貨については、「コートやニットなどの重衣料が二桁の伸びである」や「ファーの小物や手袋がよく出た」との声が聞かれた。

食料品については、「青果が値上がりした影響で、鍋料理が減ったのか、鮮魚が前年同期比9割と良くない」や「引き続き米飯を中心にした惣菜は好調である」との声が聞かれた。

お歳暮は、「贈る人も贈られる人も減っており、単価も大幅に下がったままである」など、すべての店舗で前年より1割程度減少している。その中で「県産品の詰め合わせを2,500円と低めの価格で企画したところ、非常によく出た」と話す店舗もあった。

クリスマス関連では、ケーキの予約はすべての店舗で前年を上回っているが、ギフトは「前年の8掛けである」や「1月のクリアランスセールまで購入を控えているのか、動かない」との声が多かった。

おせちの予約は「年末年始の休暇が短くおせち作りまで手が回らないためか好調である」や「老舗店の少人数向けおせちを中心によく出ている」など昨年を5~15%上回る勢いであった。

【採算性】すべての店舗が「改善している」としており、「経費削減に努力した結果、今までにない黒字を計上した」とする店舗もあった。

【今後の見通し】「100を超えたといっても12月は弱まっており、まだまだである」や「政治が安定しない限り先が読めない状況が続くだろう」など「どちらともいえない」とする店舗が多かった。

## (2) スーパー 『改善の兆しも見られるが弱い動きが続いている』

【業界の動向】商業販売統計によると県内スーパーの販売額は、既存店ベースは平成22年10月に23か月ぶりに前年同月を上回り、直近の11月も0.3%の増加となり、2か月連続で前年同月を上回った。全店ベースでは、直近の11月は3.6%の増加となり、6か月連続で前年同月を上回った。

【景況感】「全般的には徐々にではあるが景況感が上向いてきている」や「9月までは良かったが、10、11月は厳しい。12月になってもその状況は変わらない」などの声が聞かれ、改善の兆しも見られるが弱い動きが続いている。

【売上げ】「冬物衣料が全くダメ。食料品も全般的に低調で好調なものを探すのが難しい」や「顧客のニーズに合わせた品揃えをしたおかげで競合店から徐々にお客が戻ってきている」などの声が聞かれた。

品目別については、食料品は、「野菜は供給過剰気味で年末にかけ単価が下がってきている」や「魚は刺身をはじめ全般的にダメだが、肉は鶏肉以外は比較的良好に売れている」などの声が聞かれた。

衣料品は、「コートなどの重衣料は全くダメである」や「売れているのは保温性の高い肌着だけである」などの厳しい話が聞かれた。

日用雑貨品は、「使い捨てカイロ、女性用シャンプー・リンス、年末の掃除用洗剤等はよく出ている」や「ツリーをはじめクリスマス関連商品は比較的良好に売れている」などの話があった。

【採算性】「正社員もパートも極力残業しないようにして人件費を抑えているが、売上げの減少をカバーできず苦しい」や「人件費や光熱費の削減を徹底し、何とか横ばいを保っている」とする企業があった。

【設備投資】「炊飯器の購入など食品部門の設備投資を実施した」とする店舗があった。今後については、小規模の設備投資を行う予定の店舗があった。

【今後の見通し】「地元朝取り野菜の販売など、顧客のニーズに対応した商売を忠実に展開した結果、固定客は徐々に増えている」などの明るい話が聞かれた。一方、「年内に冬物衣料が売れないと、年明け以降売上高が大きく落ち込む可能性が高い」など、先行きを懸念する声も聞かれた。

## (3) 商店街 『厳しい状況が続いている』

【業界の動向】平成23年1月の内閣府の月例経済報告は、個人消費について、「持ち直しているものの、一部に弱い動きもみられる」と総括している。

【景況感】「消費が冷え込んでいる状況に変わりはない」や「客の価格への反応は非常に大きく、売れても儲からない時代になった」との声が聞かれ、すべての商店街が「不況である」としており、厳しい状況が続いている。

【来街者】「年末になり、少しは増加している」や「旅行会社とタイアップしたバスツアーにより、観光客が増加した」などの声が聞かれた。

【個店の状況】「魚屋や和洋菓子店は元気だが、飲食店はあまり良くない」や「コンビニは元気であり、売上げの伸び率は市内でもトップ級のような話があった。一方、「靴屋は閉店セールを始めた」や「スーパーも売上げがダウンしたままである」などの話があった。

【商店街としての取組】「B級グルメのイベントは盛況だった。イベントの際に店内に入ってもらうことで、次から入店することへの抵抗感が減り、来客増や売上げ増につながっている店舗もある」や「クリスマスのイベントは午前中から夕方まで人波が途切れることなく、大盛況だった」などの話があった。

また、「昨年まで実施していたイルミネーションは、財政難のために今年から廃止になった」との話もあった。

【今後の課題等】「イベント時は客が来るが、普段はそれほど多くない。生鮮三品の店舗を充実させることが必要だと思う」、「商店街のイメージアップが必要である。『あの商店街は面白い』と思ってもらえることで来街者数の増加につなげたい」や「小回りを利かせ、価格以外のサービスも提供することで、お得意さんを増やすことが大切である」との話があった。

【今後の見通し】「厳しい状況は続くと思う。何とか現状維持は保てるようにしたい」との話があった。また、「良い感覚は持てないが、イベントには少しだけ明るい光が見えるので期待している」との声も聞かれた。

### 3 情報サービス業 『悪化が続いている』

- 【業界の動向】経済産業省の特定サービス産業動態統計調査によると、情報サービス業の売上高は、直近の11月は前年同月を0.9%下回り、3か月連続で前年同月を下回った。
- 【景況感】「ソフトウェアの開発に経営を依存している企業は特に苦しい」や「入力などの単純作業は中国など海外へ仕事に移転している」など、すべての企業が「不況である」としており、悪化が続いている。
- 【売上げ】「大幅にはないが安定的な増加傾向にある」、「年末だからといって特に忙しくもない」や「ほとんど変わらない。とにかく受注状況の先が見えないのがつらい」など様々な声が聞かれた。また、「発注元はどこも様子見のところが多く、受注後も用途変更など細かい注文があり、楽な仕事は少なくなっている」との話もあった。
- 【受注単価】「発注元からは値下げの要請が常にあるが何とか断っている」、「派遣労働者の賃金分を確保せずに入札に参加している企業があるが、当社は採算割れの仕事はしない方針である」など、「変わらない」とする企業が多かった。
- 【採算性】「売上げが微増し経費も最大限削減したため、わずかだが良くなっている」や「売上げも利益も増加している。今後もこの好調さを継続していきたい」など、「良くなった」とする企業が多かった。
- 【設備投資】「サーバーやパソコンをすべて自己資金で一新した」とする企業もあったが、実施しなかった企業が多かった。今後については、すべての企業で実施予定がなかった。
- 【今後の見通し】「大手が良くなっているので、中小にもその恩恵があるものと期待している」、「新しい仕事が増えてくれればいいのだが」や「明るい材料はほとんどなく、もっと悪くなるのではないかと危惧している」など、様々な声があった。

### 4 建設業 『悪化が続き厳しい状況となっている』

- 【業界の動向】県内の新設住宅着工戸数は、平成22年10月以降2か月連続で前年同月を下回って推移しており、直近の11月は前年同月を4.5%下回った。
- 【景況感】「請負元から工事の代金支払いを、分割にしてくれないかと頼まれた」、「大手ゼネコンの中間決算をみると、売上げは軒並み減少している。大手でさえこの状態である。それ以下の企業は当然もっと悪い」など、すべての企業が「不況である」と感じており、悪化が続き厳しい状況となっている。
- 【受注高】「前期と比べ20~30%減少した」や「60億円あった受注残が40億円に減少した」との話があり、「減った」とする企業が多かった。  
公共工事については、「公共工事が減少し、受注は以前の1/3に減っている」、「公共工事の売上げ計画を下方修正した」との話があった。  
民間工事については、「見直されている木造建築で、介護施設・保育園などの受注があった」との話もあったが、「県南はまだいいが、相変わらず大宮以北では仕事がない」や「設備投資に関する案件はない」などの話があった。
- 【受注価格】前年同期比では「5~10%下がった」とする企業が多く、「5年前頃から急速に下がった。トータルで30%程度下がっている」、「販売価格が低下しているマンションは、特に建設費を圧縮しなければならない」といった話があった。
- 【資材価格】「材木、生コンは変わらなかった」や「鉄筋はトン当たり13,000円下がった。今が底値と言われている」など、材料によって様々だった。今後については、「生コンは変わらないが、鉄筋は既に材料問屋から値上げするとされている」、「鋼材は2~3%上がる」との話があった。
- 【採算性】「今までは受けなかった採算ギリギリの案件も仕方なく取っている」や「仕事量の減少が価格競争を生み、採算を悪化させている」など、すべての企業が「悪くなった」としている。
- 【設備投資】すべての企業が実施しておらず、今後についても多くの企業で実施予定はない。
- 【今後の見通し】「この業界は景気の回復にタイムラグがある。暫くはこの不況の状態が続く」との話があり、すべての企業が「このままの悪い状態が続く」と考えている。